

すぎ はないせき 18. 杉の花遺跡

所在地：越前町織田 113-1

調査原因：範囲確認

調査期間：平成 22 年 7 月 14 日～7 月 27 日

調査主体：越前町教育委員会

調査面積：17.6 m²

時代：奈良時代～近世



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 越前町教育委員会は越前町文化財悉皆調査事業の一環で、杉の花遺跡（劔神社境内地）の範囲確認調査を実施しました。劔神社の考古学的な学術調査は初めてのことで、設定した調査区は2か所。社務所前の第1調査区と手水舎前の第2調査区です。

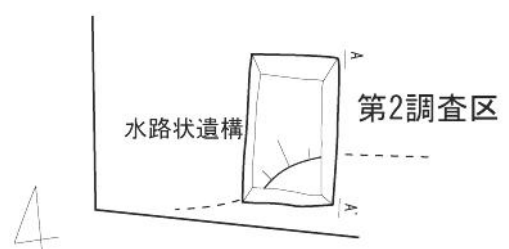
遺構 落ち込み状遺構1・水路状遺構1・柱穴跡7・礎石跡1が検出されました。

第1調査区の中央付近から第2調査区南端にかけて、落ち込み状遺構を確認しました。南北幅8m、高低差は0.64m。遺構の底面は拝殿にむかって水平に伸び、第2調査区の南端まで続いていました。そこを切り込むように、水路状遺構が検出されました。調査区が狭いため、水路の規模は確認できませんでした。「劔神社古絵図」（室町時代）にみられる神社と神宮寺を仕切る区画であり、境内を横断する水路だと考えられます。これらの遺構からは、奈良時代から江戸末期の遺物が数多く出土しました。巨石や土器を含む黒土で埋められており、明治以降の遺物を含まないことから、江戸末から明治初めにかけて一気に埋められたことがわかりました。また、第1調査区の南で、礎石跡が検出されました。古絵図と照合すると、護摩堂あたりに位置します。護摩堂かどうかは今後の調査で明らかになってくるでしょう。

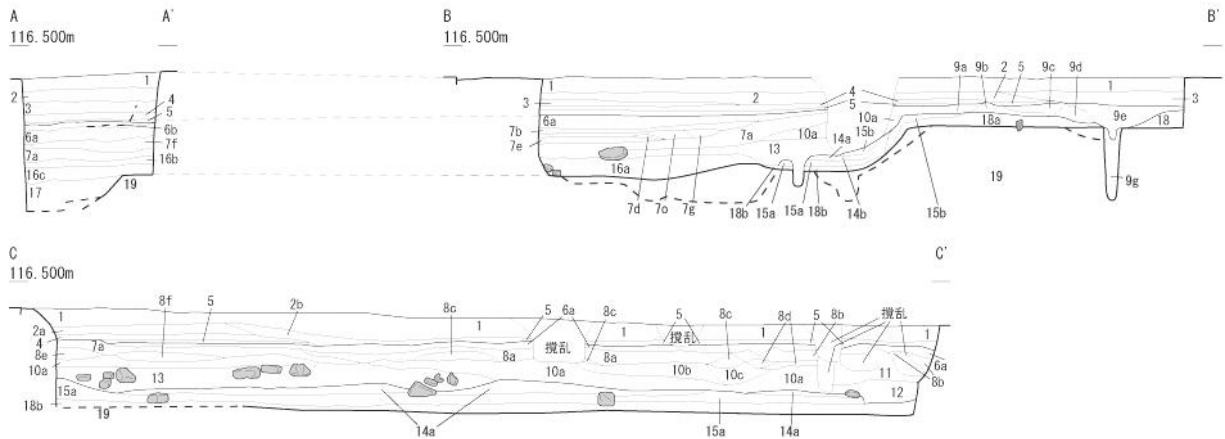
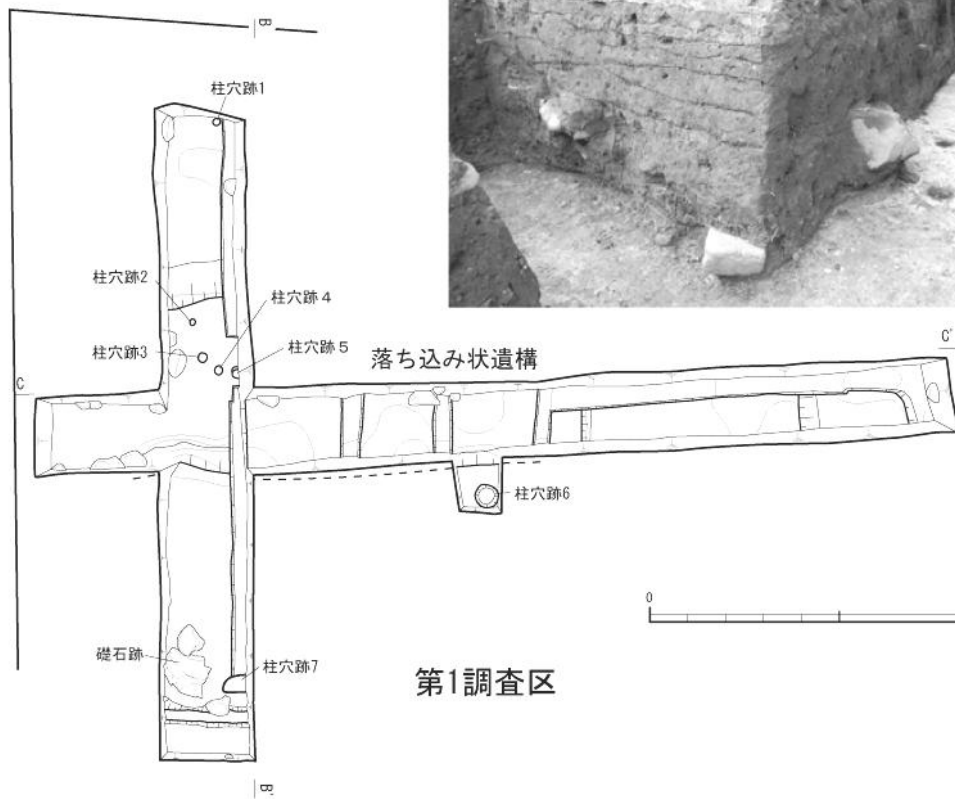
遺物 出土遺物は約805点を数えました。須恵器、越前焼、青磁、陶磁器、土師器、土師器皿、瓦、鉄釘、砥石などです。近世以降の瓦や土師器皿が多いです。最も古い遺物は奈良時代後期の須恵器でした。

まとめ 今回の調査により多くの成果を得ることができました。まず、劔神社や劔御子寺の考古学的な成立時期です。遺物には奈良後期のものがあり、梵鐘（770年銘）以外の物証を得ることができました。次に、古絵図と遺構の照合です。古絵図は東西方向に水路が横断し、神社と神宮寺の建物が詳細に描かれるなど、中世における神仏習合のあり方がわかるものです。今回、水路状遺構を確認したため、神社と神宮寺の境を確定することができました。さらに、落ち込み状遺構と水路状遺構が、幕末の拝殿建築か明治初めの廃仏毀釈運動によって埋められた可能性が高くなりました。最後に、出土遺物を見ると、劔神社は奈良後期から現代に至るまで、連綿と続いていた宗教施設であることが考古学的に明らかになりました。

（堀 大介）



石畳



遺構配置図